

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

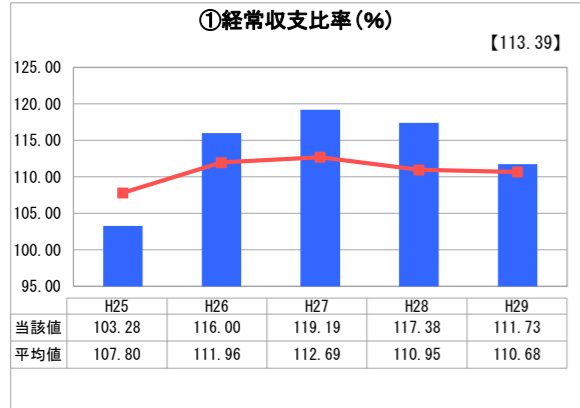
岡山県 笠岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	93.25	98.81	4,190	

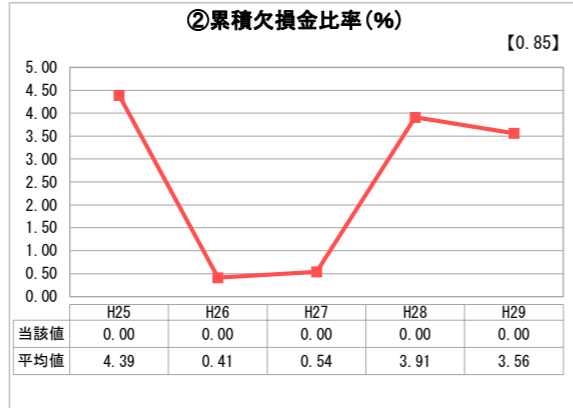
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
49,538	136.24	363.61
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
48,681	136.39	356.92

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

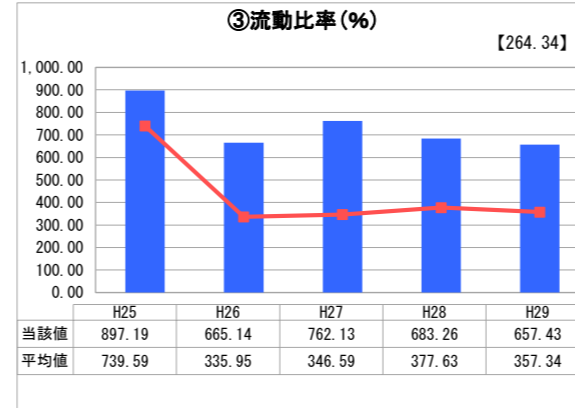
## 1. 経営の健全性・効率性



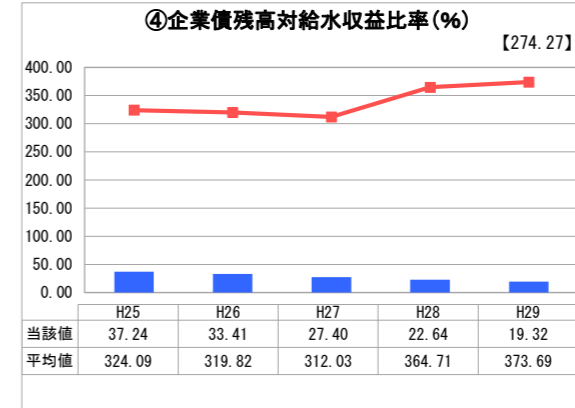
「経常損益」



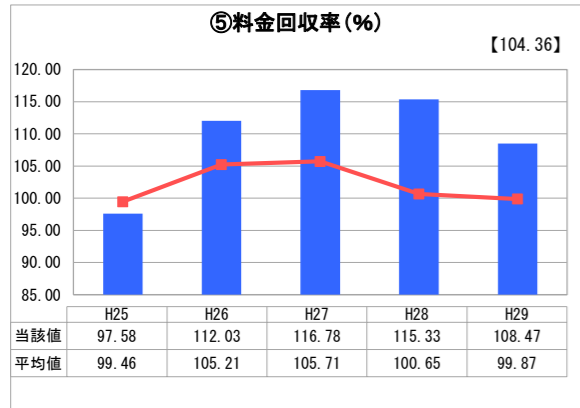
「累積欠損」



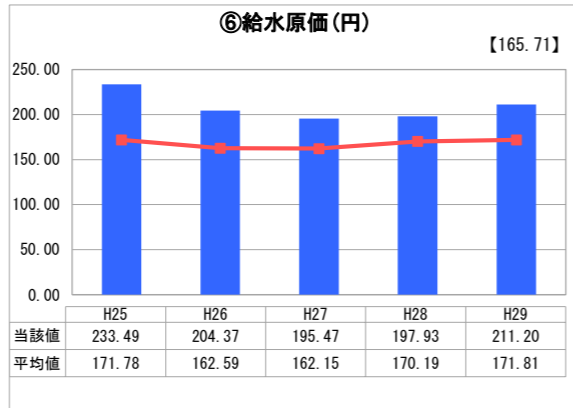
「支払能力」



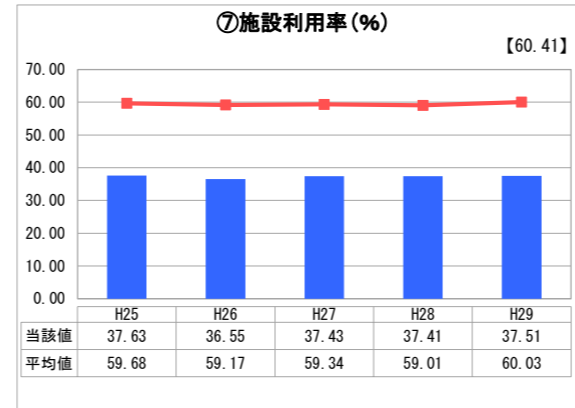
「債務残高」



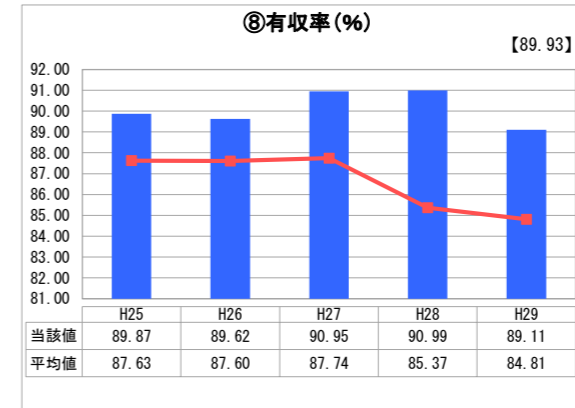
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

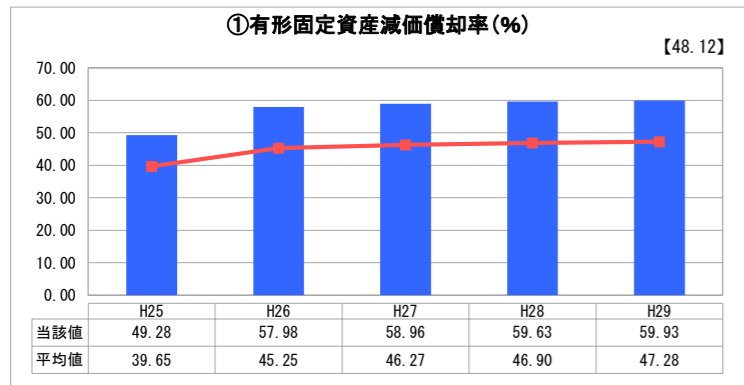


「施設の効率性」

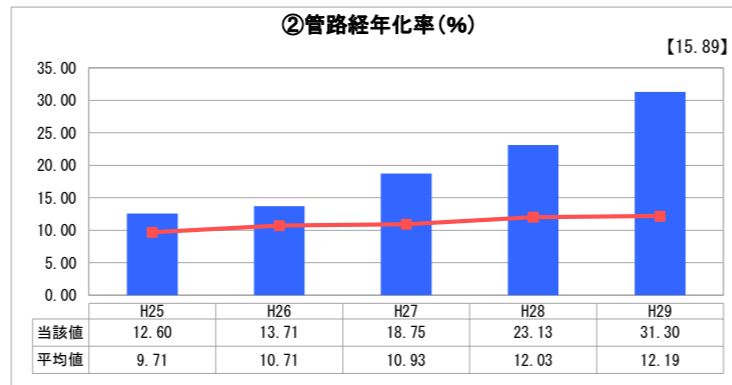


「供給した配水量の効率性」

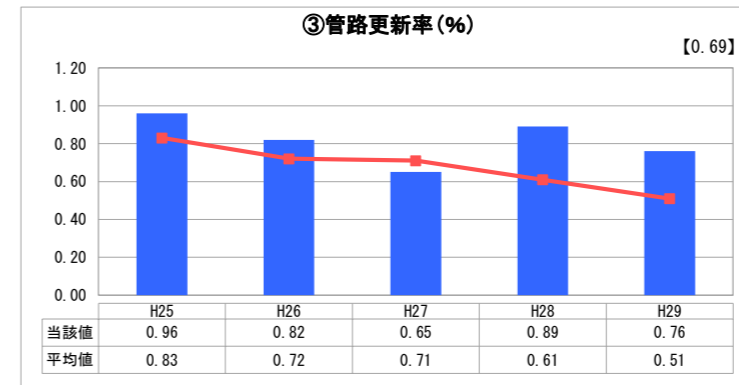
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」  
100%を上回っていますが、平成29年度は、給水収益の減少に加え、費用が増加したため、前年度より減少しています。

「累積欠損金比率」  
累積欠損金は、平成23年度以降はありません。

「流動比率」  
類似団体平均値を大きく上回っており、健全な状態です。平成29年度は、未払金が増えたことなどにより、前年度より減少しています。

「企業債残高対給水収益比率」  
企業債の新たな借入れがなく、企業債の償還が順調に進んでいます。

「料金回収率」  
類似団体平均値を上回っていますが、平成29年度は、費用が増加したため、前年度より減少しています。

「給水原価」  
当市は、水源が遠く、また、島しょ部を含む市内全域に給水しているため、多くの費用が必要で、類似団体平均値を上回っています。平成29年度は、費用が増加したため、前年度より増加しています。

「施設利用率」  
給水人口の減少が続いて配水量が増えず、類似団体平均値より低くなっています。

「有収率」  
類似団体平均値を上回っていますが、平成29年度は、漏水事故が増えたため、前年度を下回りました。

### 2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」  
類似団体平均値を上回っており、施設の老朽化が進んでいる状況です。平成26年度に大幅に増加しているのは、会計制度の改正の影響によるものです。

「管路経年化率」  
過去に集中して整備した管路が、法定耐用年数を迎える時期に入ったため、ここ数年で急増しています。管路の経年化が急速に進んでおり、類似団体平均値を大きく上回る状況になっています。

「管路更新率」  
平成29年度は、類似団体平均値を上回りましたが、前年度より管路の更新に要した工事費用が増加したにもかかわらず、更新した管路の長さが短かったため、前年度より管路更新率が低くなっています。

### 全体総括

健全な経営状態を維持していますが、平成29年度は、漏水事故が増えたことにより、有収率が前年度を下るとともに、修繕費用が増加しました。さらに、水道事業ビジョンと水道施設の中長期更新計画の策定などにより、費用が大幅に増加したため、経常収支比率や料金回収率などの指標が前年度より悪化しました。

また、法定耐用年数を超えた管路がここ数年で急増しています。平成29年度に策定した水道施設の中長期更新計画に沿って、計画的・効率的に水道施設の更新を進めていきます。

当市水道事業の基本計画である笠岡市水道事業ビジョン(平成29年度策定)に続き、経営の基本計画となる経営戦略を平成32年度までに策定し、今後も健全な経営状態が維持できるよう計画的に取組みます。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。